

震災から十二年

ひざさ小六 秋丸ハルカ

一九九五年一月十七日、午前五時四十六分

神戸をおそった大震災は、人々から、希望をうばいました。

震災があった当時、私は神戸に住んでいました。せんべした。もちろん、私の家族の中に、震災を経験した人はいません。でも、テレビや新聞で大きく報じられるに、震災は、たとえ神戸にいなかった人でも、震災のおそろしさを改めて感じたこと、両親が言っていたこと、今年で十二年目をむかえるあの日から、神戸は大きく変わりました。先生や、まわりの大人の人々が言っています。震災の話を聞いているときも、改めて、神戸はすごいなあ。

と、思いました。

震災を経験した人にとって、あの日のこと、決して忘れられないこと、かもしあわせに、びびり、その教訓を生かして、多くの人々に

震災体験を伝えるという事は、
すごく勇気がいることだけれど、
思いが、と、思いが、もし、私が当時小学
一年生で、震災の記憶があつたとしても、そ
の体験を人に伝えるというのは、こわくてで
きないと思います。でも、それができるとい
うことは、震災を体験し、立ち直つた人だけ
にあてえられる強さがあるからなんだらうな
あ、と思います。

今、震災の被害にあつて、苦しんでいる人
たちに私は何がでさるだらうか。私は、震災
を体験したわけでもなく、震災の体験を人に
伝えられるわけでもありません。でも、多く
のひとふれあうことがいやな人なんていない
と思います。だから、あつたことでも、
震災の被害にあつた人にとふれあつて、け
げましてあげられたらいいなあ、と思つてい
ます。